

韮崎市林道施設長寿命化計画(個別施設計画)

1. 基本的事項

小武川1号橋 橋長 114.3m(4 径間) 総幅員 4.2m(有効幅員 3.6m)
建設年度 昭和 38 年 3 月(供用年数 61 年) 橋梁種別 PC T桁橋

2. 対象施設

本計画の対象とする施設は別紙のとおりである。

3. 計画期間

本計画における施設毎の計画期間は別紙のとおりである。

4. 施設の優先度

本計画における施設毎の優先度は別紙のとおりである。

5. 施設の状態等

令和 3 年度工事の補修している主桁の断面修復箇所が再劣化しており、道路橋の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずべき状態

6. 対策内容と実施時期

次回の定期点検である 5 年後の令和 11 年度までには、措置を講ずる必要がある。令和 8 年度に補修工事予定を行い、毎年、補修箇所について再劣化の有無を確認することが望ましい。

7. 対策費用

補修工事(直接工事費)
約 0.5 (百万円)

※個々の施設毎に作成

橋梁一覽(個票)

個別施設整理番号		林道台帳索引番号	5-1(1001)	施設管理者	韮崎市
路線名	小武川線	林道種類及び区分		橋梁名	小武川1号橋
施設の所在地	韮崎市円野町	起点からの距離		建設年度	昭和38年3月
供用年数	61年	種別	PC橋	型式	コンクリート床版橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	不明	橋下条件	小武川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	114.3m(28.575m)		幅員(車道幅員)	5.2m(4.0m)
	施設の構造等	上部工形式	PC T桁			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
			支承型式	鋼製支承	落橋防止の有無	無
		橋台工形式	重力式橋台		基礎型式	直接基礎
		橋脚工形式	不明		海岸からの距離	—
	施設の目的利用実態等	林道小武川線は、周辺に各自治体(国土交通省・山梨県)等の工事が実施されており、準中型以上の車両について通行禁止としている路線ではあるが、工事車両が頻繁に通行する。又、当該林道は、災害時等の迂回路や近隣地域を結ぶ生活道路としての機能も有しており、地域住民の利用も見られる。				

施設の 状態等 の概要	点検診断日	令和6年12月9日	
	調査結果	桁の補修箇所が再劣化し、深刻なひびわれと支承に腐食・ボルトの脱落・ゆるみが見られる。このまま放置すると車両の通行による振動や内部に侵入した雨水により、損傷が進展すると共に最悪の場合、落橋する可能性がある。	
	健全性の 診断結果	Ⅲ (早期措置段階)	道路橋の機能に支障が生じている可能性があり、早期に措置を講ずべき状態
	劣化原因	疲労による劣化と推定。	

長寿命化計画の内容	計画期間	令和7年度～令和10年度	
	内容	補修工事を行う。	
	実施予定時期	道路橋の機能に支障が生じる可能性が高く、早期に対策を実施することが望ましい。	
	施設の優先度	高	(優先度の考え方) 地元住民、工事関係者の利用があり、早期に対策する必要があるため優先度は「高」とした。
	対策費用 (概算)	早期の対策として、準中型以上の車両に対して物理的に通行できない対応およびⅢ判定の損傷の補修工事を行う。又、毎年、補修箇所の再劣化の有無について確認し、排水施設の清掃等維持作業を適切に行う。	

	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年	令和12年	令和13年	令和14年	令和15年
対策費用(百万円)	0.9		0.5 (直工)			0.9				
対策の内容・実施時期	定期点検		補修工事			定期点検				

備考

前回定期点検時(R1)に支承真上付近の主桁にひびわれおよび鉄筋露出が見られ、令和3年度に断面修復工事を行っており、断面修復した箇所再度、ひびわれが生じている。損傷の要因としては、活荷重によるものと推定され準中型以上の車両について通行規制を行っているが規制を無視して通行している車両も見られるため、物理的に通行できない対策かつ、補修工事を行い、経過を観察する。

小武川 1 号橋 概算数量

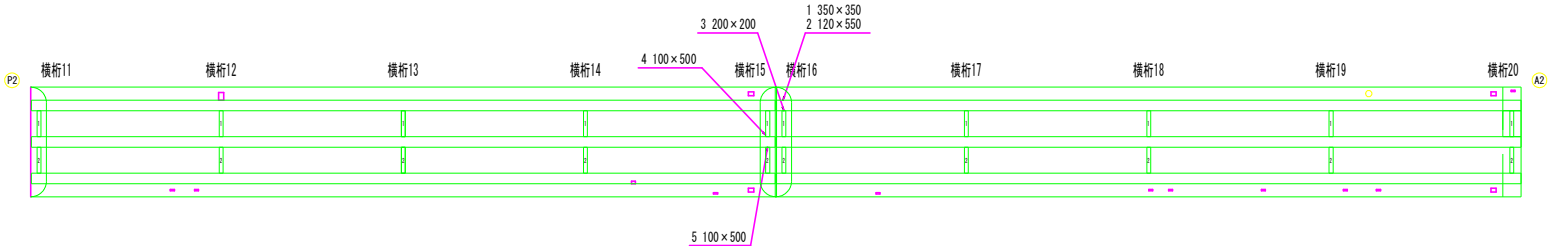
S=1:100(縮小版S=1:200)

損傷の凡例			
損傷の種類	表 示	損傷の種類	表 示
ひびわれ		豆板・空洞	
剥 離		すりへり・侵食	
鉄筋露出		漏 水	
遊離石灰		そ の 他	

注) □ 内は、写真番号を示す。
青字：2019年度 初回点検結果
赤字：2024年度 定期点検結果
※ この図面の形状寸法は、現橋を正確に表現したものではない
※ 健全性Ⅲとなる主桁の損傷を選定している。

小武川

桁下面図



断面修復工 数量表

No.	計算式	面積(m ²)	数量(※)	備 考
1	0.35×0.35	0.12	0.0096	深さ0.08mとする
2	0.12×0.55	0.07	0.0021	※
3	0.2×0.2	0.04	0.0012	深さ0.03mとする
4	0.1×0.5	0.05	0.005	深さ0.10mとする
5	0.1×0.5	0.05	0.005	※
合 計			0.0229	

韮崎市林道施設長寿命化計画(個別施設計画)

1. 基本的事項

小武川2号橋 橋長 58.7m(5 径間) 総幅員 4.0m(有効幅員 3.6m)
建設年度 不明(供用年数 不明) 橋梁種別 RC T桁橋

2. 対象施設

本計画の対象とする施設は別紙のとおりである。

3. 計画期間

本計画における施設毎の計画期間は別紙のとおりである。

4. 施設の優先度

本計画における施設毎の優先度は別紙のとおりである。

5. 施設の状態等

道路橋の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。

6. 対策内容と実施時期

上部構造部に鉄筋露出、遊離石灰を伴うひびわれ他、下部構造部に欠損、うき、遊離石灰を伴うひびわれ他が見られる。令和7年～令和10年に補修工事予定とする。また、5年後の令和11年に定期点検を実施する。

7. 対策費用

補修工事(直接工事費)
約 1.8 (百万円)

※個々の施設毎に作成

橋梁一覽(個票)

個別施設整理番号		林道台帳索引番号	5-1(1001)	施設管理者	韮崎市
路線名	小武川線	林道種類及び区分		橋梁名	小武川2号橋
施設の所在地	韮崎市円野町	起点からの距離		建設年度	不明
供用年数	不明	種別	RC橋	型式	コンクリート床版橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	不明	橋下条件	小武川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	58.7m(11.74m)		幅員(車道幅員)	4.0m(3.6m)
	施設の構造等	上部工形式	RC T桁			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
			支承型式	鋼製支承	落橋防止の有無	無
		橋台工形式	重力式橋台		基礎型式	直接基礎
		橋脚工形式	不明		海岸からの距離	—
	施設の目的利用実態等	林道小武川線は、周辺に各自治体(国土交通省・山梨県)等の工事が実施されており、準中型以上の車両について通行禁止としている路線ではあるが、工事車両が頻繁に通行する。又、当該林道は、災害時等の迂回路や近隣地域を結ぶ生活道路としての機能も有しており、地域住民の利用も見られる。				

施設の 状態等 の概要	点検診断日	令和6年12月11日	
	調査結果	上部構造部に鉄筋露出、ひびわれ・漏水・遊離石灰他、下部構造に欠損、うき、ひびわれ・漏水・遊離石灰他が見られる。橋歴も50年以上と推定されるため、各損傷の劣化要因として経年劣化が多いものと推定される。	
	健全性の 診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	道路橋の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態
	劣化原因	経年劣化、伝い水、排水不良等による複合劣化と推定	

長 寿 命 化 計 画 の 内 容	計画期間	令和7年度～令和10年度	
	内容	ひびわれ補修工、断面修復工による補修工事を行う。	
	実施予定時期	予防保全の観点から早期に対策を実施することが望ましいが、他橋梁との優先度を考慮する。	
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 各自治体工事の関係者車両の通行があるため、優先度は「中」とした。
	対策費用 (概算)	長寿命化対策として、ひびわれ補修工、断面修復工を行うと共に、5年に1回の定期点検を行う。又、排水施設の清掃等維持作業を適切に行う。	

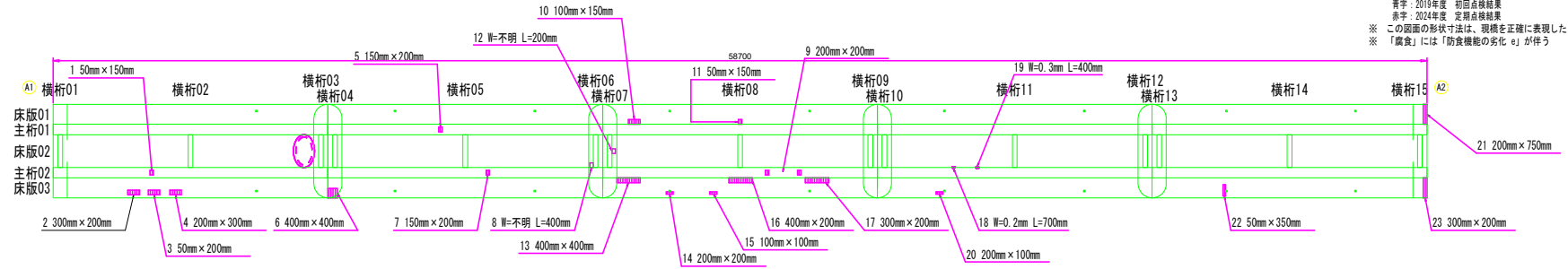
	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年	令和12年	令和13年	令和14年	令和15年
対策費用(百万円)	0.9			1.8 (直工)		0.9				
対策の内容・実施時期	定期点検			補修工		定期点検				

備 考	
橋脚の欠損の対策措置として、補強工事が考えられる。橋脚の補強には、1級河川小武川の河川断面を犯すことが考えられ、国土交通省の許可を得られない可能性があるため、対策費用として計上をしていない。	
また、防護柵全体に見られる著しい欠損等については、補修を行うのではなく、防護柵の撤去・設置するのが望ましく、大掛かりな更新工事になるため、対策費用として計上をしていない。	

小武川2号橋 損傷図

S=1:100 (縮小版S=1:200)

桁下面図 小武川



損傷の凡例			
損傷の種類	表 示	損傷の種類	表 示
ひびわれ		豆板・空洞	
剥離		すりへり・侵食	
鉄筋露出		漏水	
遊離石灰		その他	

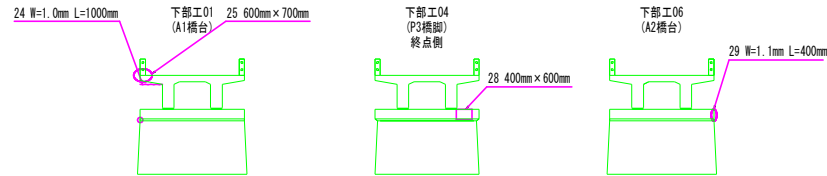
注) □内は、写真番号を示す。

青字: 2019年度 初回点検結果

赤字: 2024年度 定期点検結果

※ この図面の形状寸法は、現橋を正確に表現したものではない
※ 「腐食」には「防食機能の劣化 e」が伴う

下部工図



断面修復工 数量表

No.	計算式	面積 (㎡)	数量 (※)	備 考
1	0.05×0.15	0.01	0.0003	深さ0.03mとする
2	0.3×0.25	0.08	0.0024	〃
3	0.05×0.2	0.01	0.0003	〃
4	0.2×0.3	0.06	0.0018	〃
5	0.15×0.2	0.03	0.0009	〃
6	0.4×0.4	0.16	0.0048	〃
7	0.15×0.2	0.03	0.0009	〃
9	0.2×0.2	0.04	0.0012	〃
10	0.1×0.15	0.02	0.0006	〃
11	0.05×0.15	0.01	0.0003	〃
13	0.4×0.4	0.16	0.0048	〃
14	0.2×0.2	0.04	0.0012	〃
15	0.1×0.1	0.01	0.0003	〃
16	0.4×0.2	0.08	0.0024	〃
17	0.3×0.2	0.06	0.0018	〃
20	0.2×0.1	0.02	0.0006	〃
21	0.2×0.75	0.15	0.0045	〃
22	0.05×0.35	0.02	0.0006	〃
23	0.3×0.2	0.06	0.0018	〃
25	0.6×0.7	0.42	0.0126	〃
28	0.4×0.6	0.24	0.0072	〃
合 計			0.0513	

ひびわれ補修工 数量表

No.	ひびわれ幅 (mm)	延長 (m)	備 考
8	0.2	0.4	
12	0.2	0.2	
18	0.2	0.7	
19	0.3	0.4	
24	1	1	
29	1.1	0.4	
合計 3.1 m			

韮崎市林道施設長寿命化計画(個別施設計画)

1. 基本的事項

小武川3号橋 橋長 32.7m(1 径間) 総幅員 4.4m(有効幅員 3.6m)
建設年度 昭和 58 年(供用年数 41 年) 橋梁種別 鋼I桁橋

2. 対象施設

本計画の対象とする施設は別紙のとおりである。

3. 計画期間

本計画における施設毎の計画期間は別紙のとおりである。

4. 施設の優先度

本計画における施設毎の優先度は別紙のとおりである。

5. 施設の状態等

道路橋の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。

6. 対策内容と実施時期

平成 25 年度に補修工事(塗装も含む)が行われている。支承部のアンカーボルトに著しい腐食があり、令和 7 年～令和 10 年に補修工事予定とする。また、5 年後の令和 11 年に定期点検を実施する。

7. 対策費用

補修工事(直接工事費)
約 0.3 (百万円)

※個々の施設毎に作成

橋梁一覽(個票)

個別施設整理番号		林道台帳索引番号	5-1(1001)	施設管理者	韮崎市
路線名	小武川線	林道種類及び区分		橋梁名	小武川3号橋
施設の所在地	韮崎市円野町	起点からの距離		建設年度	昭和58年3月
供用年数	41年	種別	鋼橋	型式	鋼I桁
道路橋示方書	昭和55年	橋格(設計荷重)	二等橋	橋下条件	小武川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	32.7m		幅員(車道幅員)	4.4m(3.8m)	
	施設の構造等	上部工形式	鋼 I 桁				
			鋼製(使用鋼材)	—		塗装使用の有無	—
		支承型式	鋼製支承		落橋防止の有無	無	
		橋台工形式	重力式橋台		基礎型式	直接基礎	
	橋脚工形式	不明		海岸からの距離	—		
施設の目的利用実態等	林道小武川線は、周辺に各自治体(国土交通省・山梨県)等の工事が実施されており、準中型以上の車両について通行禁止としている路線ではあるが、工事車両が頻繁に通行する。又、当該林道は、災害時等の迂回路や近隣地域を結ぶ生活道路としての機能も有しており、地域住民の利用も見られる。						
施設の状態等の概要	点検診断日	令和6年12月10日					
	調査結果	支承のアンカーボルトに著しい腐食が見られる。劣化要因としては、A1側伸縮装置に土砂堆積があり目視ができないが、この伸縮装置から漏水し、支承のアンカーボルトが腐食していると推定される。					
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	道路橋の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。				
	劣化原因	伸縮装置からの漏水と推定される。					
長寿命化計画の内容	計画期間	令和7年度～令和10年度					
	内容	5年に1回の定期点検を行う。					
	実施予定時期	塗替塗装工による補修工事を行う。					
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 各自治体工事の関係者車両の通行があるため、優先度は「中」とした。				
	対策費用(概算)	長寿命化対策として、塗替塗装工を行うと共に、5年に1回の定期点検を行う。又、排水施設の清掃等維持作業を適切に行う。					

	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年	令和12年	令和13年	令和14年	令和15年
対策費用(百万円)	0.9			0.3 (直工)		0.9				
対策の内容・実施時期	定期点検			補修工		定期点検				

備 考	

小武川3号橋 損傷図 S=1:75(縮小版S=1:150)

損傷の凡例			
損傷の種類	表 示	損傷の種類	表 示
ひびわれ		豆板・空洞	
剥離		すりへり・侵食	
鉄筋露出		漏水	
遊離石灰		その他	

注) □ 内は、写真番号を示す。

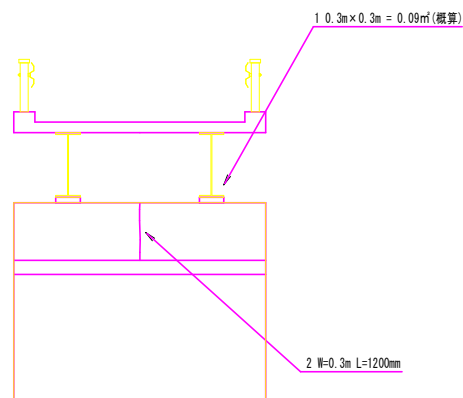
青字：2019年度 前回点検結果

赤字：2024年度 定期点検結果

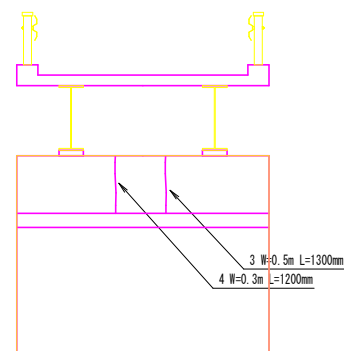
※ この図面の形状寸法は、現橋を正確に表現したものではない
※ 「腐食」には「防食機能の劣化 e」が伴う

下部工図

下部工01
(A1橋台)



下部工02
(A2橋台)



塗装塗替工 数量表

No.	面積 (㎡)	備 考
1	0.03	
合計 0.03 ㎡		

ひびわれ補修工 数量表

No.	ひびわれ幅 (mm)	延長(m)	備 考
2	0.3	1.2	
3	0.5	1.3	
4	0.3	1.2	
合計 3.7 m			

韭崎市林道施設長寿命化計画(個別施設計画)

1. 基本的事項

青木橋 橋長 51.1m(2 径間) 総幅員 5.2m(有効幅員 4.0m)

建設年度 平成 14 年度(供用年数 21 年) 橋梁種別 鋼H桁橋

2. 対象施設

本計画の対象とする施設は別紙のとおりである。

3. 計画期間

本計画における施設毎の計画期間は別紙のとおりである。

4. 施設の優先度

本計画における施設毎の優先度は別紙のとおりである。

5. 施設の状態等

道路橋の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態

6. 対策内容と実施時期

張出し床版に遊離石灰を伴うひびわれが見られる。令和 7 年～令和 10 年に補修予定とする。また、5 年後の令和 11 年に定期点検を実施する。

7. 対策費用

補修工事(直接工事費)

約 1.8 (百万円)

※個々の施設毎に作成

橋梁一覧(個票)

個別施設整理番号		林道台帳索引番号	6(3008)	施設管理者	韮崎市
路線名	御座石線	林道種類及び区分		橋梁名	青木橋
施設の所在地	韮崎市清哲町	起点からの距離		建設年度	平成14年度
供用年数	16年	種別	鋼橋	型式	鋼H桁
道路橋示方書	平成14年	橋格(設計荷重)	A活荷重	橋下条件	小武川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	51.1m(25.55m)		幅員(車道幅員)	5.2m(4.0m)	
	施設の構造等	上部工形式	鋼 H 桁				
			鋼製(使用鋼材)	—		塗装使用の有無	—
			支承型式	鋼製支承		落橋防止の有無	有
		橋台工形式	重力式橋台			基礎型式	直接基礎
		橋脚工形式	不明			海岸からの距離	—
施設の目的 利用実態等	林道御座石線は、周辺に青石鉱泉、鳳凰三山の登山口があり、5月上旬から11月下旬にかけて商業施設利用客および登山客の車両が頻繁に通行する路線である。						
施設の状態等の概要	点検診断日	令和6年12月10日					
	調査結果	張出床版にひびわれ・漏水・遊離石灰が見られる。地覆からの伝い水が要因で、損傷が進展する可能性がある。					
	健全性の 診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	道路橋の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態				
	劣化原因	初期収縮、地覆からの伝い水による複合劣化と推定。					
長寿命化計画の内容	計画期間	令和7年度～令和10年度					
	内容	ひびわれ補修工による補修工事を行う。					
	実施予定時期	予防保全の観点から早期に対策を実施することが望ましいが、他橋梁との優先度を考慮する。					
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 商業施設等の利用に伴う、車両通行があるため、優先度は「中」とした。				
	対策費用 (概算)	長寿命化対策として、張出し床版のひびわれ・漏水・遊離石灰についてひびわれ補修工を行うと共に、5年に1回の定期点検を行う。又、排水施設の清掃等維持作業を適切に行う。					

	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年	令和12年	令和13年	令和14年	令和15年
対策費用(百万円)	0.9			1.8 (直工)		0.9				
対策の内容・実施時期	定期点検			補修工		定期点検				

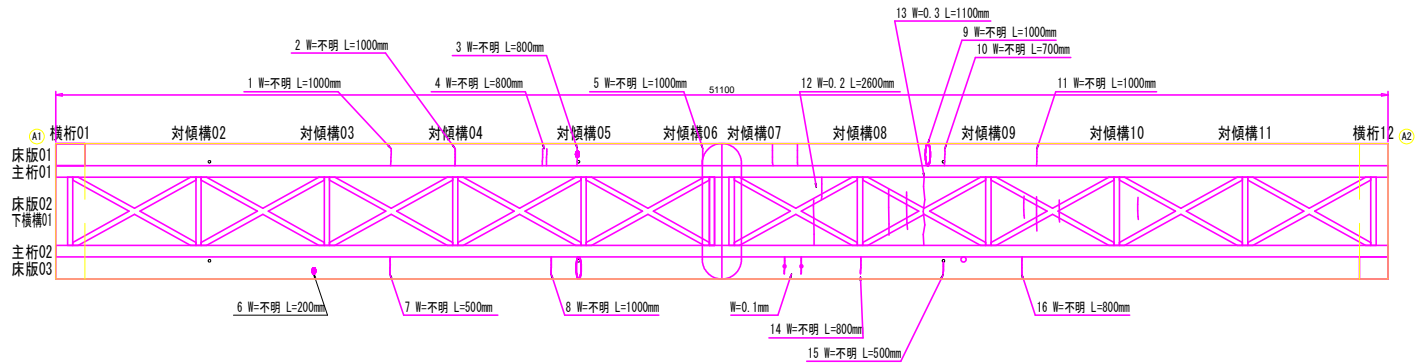
備 考

青木橋 損傷図 S=1:100 (縮小版S=1:200)

損傷の凡例			
損傷の種類	表 示	損傷の種類	表 示
ひびわれ		豆板・空洞	
剥 離		すりへり・侵食	
鉄筋露出		漏 水	
遊離石灰		そ の 他	

注) □ 内は、写真番号を示す。
青字：2019年度 初回点検結果
黒字：2024年度 定期点検結果
※ この図面の形状寸法は、現橋を正確に表現したものではない

桁下面図 河川



ひびわれ補修工 数量表

No.	ひびわれ幅 (mm)	延長(m)	備 考
1	0.2	1.0	
2	0.2	1.0	
3	0.2	0.8	
4	0.2	0.8	
5	0.2	1.0	
6	0.2	0.2	
7	0.2	0.5	
8	0.2	1.0	
9	0.2	1.0	
10	0.2	0.7	
11	0.2	1.0	
12	0.2	2.6	
13	0.3	1.1	
14	0.2	0.8	
15	0.2	0.5	
16	0.2	0.8	
		合計 14.8 m	